

平成23年版

まんがで読む防衛白書

東日本大震災における自衛隊の災害派遣活動



とうじょうじん ぶつしょうかい
登場人物紹介



あやこ

とうほくしん かいじょうじまいかん
東北出身の海上自衛官。
ひかし ほんだいしんさかづき もととうほく さいがい
東日本大震災では地元東北で災害
はけんかつどう
派遣活動にあたる。

かつのり

しょうがく ねんせい
小学5年生。
せおが
世話好きでやさしい。



まりこ

しょうがく ねんせい
小学5年生。 こうきしん好奇心おうせい
で
のんびり屋。

もくじ

- だい しょう
第1章 **プロローグ** にちじょう ~かけがえのない日常~2
- だい しょう
第2章 **地震発生**6
- だい しょう
第3章 **すべては被災者のために** ひ さい しゃ18
- だい しょう
第4章 **見えない敵との戦い** み てき たたか36
- だい しょう
第5章 **真の友** しん とも44
- だい しょう
第6章 **笑顔を取り戻したい** え がお と もど54
- だい しょう
第7章 **エピローグ** す ば にちじょう ~素晴らしき日常~64

だい しょう
第1章

プロローグ

～かけがえのない日常～

2012年3月



これで
もうすぐ
春休みだ！

キー
カ
ー
ン

あれから
もう
1年たつんだね

去年は
卒業式が
できなかったもんね



こんにちは！

あやこさん！

今日ね
学校は
卒業式だったの

小学校で
やったの？

うん！

あの景色が
うそみたい

去年のことは
忘れられない
けれど

これも
あやこさんの
おかげ

自衛隊の
みなさんが
がんばって
くれたからだよ

そんな……



あれから
1年^{ねん}なんて
信じられない

こうして
いられるのも……

ひと
ちから
人の力って
ほんとう
本当にすごいなあって
おも
思った

たくさんの
ひと
人の支えと
つながり
が
あったから……

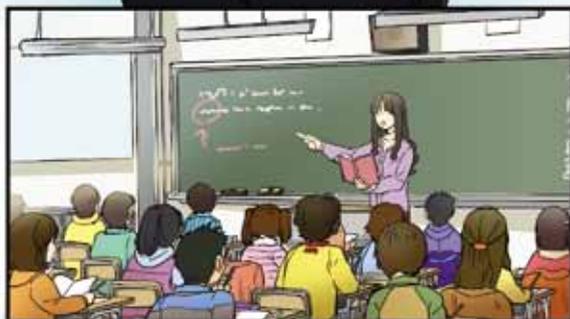


だいしょう
第2章

じしんはっせい
地震発生



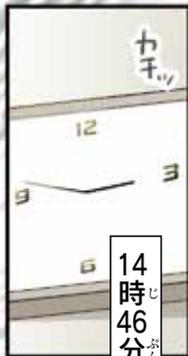
だから自衛隊はみんなを早く助けるためにすぐに全力で動いたの



2011年3月11日

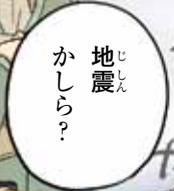
キヤッ!

ガタッ





2011年3月11日
ねんがつにち
同時刻 東京
どうじくとうきょう



ほんじつ
本日14時46分ごろ
みやぎけんさんりくおき
宮城県三陸沖を震源とした
おおお
大きな揺れがありました

げんざい
現在……

でんわ
電話もメールも
ぜんぜん
全然つながらない

これじゃ
いつ帰れるか
わからないわ

わたしの実家
だいじょうぶ
大丈夫かな……

【地震の概要】（緊急災害対策本部：平成24年3月6日17:00時点）

- ①発生日時：平成23年3月11日（金）14時46分
- ②震源及び規模（推定）：三陸沖、深さ24km、マグニチュード9.0
- ③各地の震度（震度6弱以上）
 - 震度7 宮城県北部
 - 震度6強 宮城県南部・中部、福島県中通り・浜通り、茨城県北部・南部、栃木県北部・南部
 - 震度6弱 岩手県沿岸南部・内陸北部・内陸南部、福島県会津、群馬県南部、埼玉県南部、千葉県北西部
- ④津波：3月11日14時49分 津波警報（大津波）を発表
津波の観測値（検潮所）
最大波 相馬9.3m以上、石巻市鮎川8.6m以上、宮古8.5m以上、大船渡8.0m以上
- ⑤被害状況等
 - 人的被害：死者15,854名、行方不明者3,272名、負傷者6,025名
 - 建築物被害：全壊128,411戸、半壊245,538戸、一部破損：685,152戸

【地震の特徴】

- 国内観測史上最大規模（マグニチュード9.0）の震災
- 同じく国内観測史上最大規模となる遡上高40.5mの津波による沿岸地域の甚大な被害
- 東北地方から関東地方までまたがる広域な被災地域
- 多数の地方自治体が壊滅的な被害により機能喪失
- 東京電力福島第一原子力発電所の事故

東日本大震災について

平成23年（2011年）3月11日14時46分、三陸沖を震源とする最大震度7の大地震（国内観測史上最大のマグニチュード9.0）が発生しました。岩手県・宮城県・福島県では地震により発生した大津波によって海岸沿いの集落が広範囲にわたり水没したほか、東京電力福島第一原子力発電所では原子炉などが傷つき、放射性物質がもれる事故もあわせて起こるなど、広域にわたり大規模かつはなはだしい被害をもたらした未曾有の大震災となりました。

地震発生からわずか4分後



防衛省

この未曾有の被害に迅速に対応するよう災害対策本部を設置する



状況の把握と情報収集に万全を期すよう全力を尽くしてください

3月11日14時50分

防衛省・自衛隊は防衛省災害対策本部を設置し航空機などによる情報収集を行いました。そして18時00分には大規模震災災害派遣を19時30分には原子力災害派遣をそれぞれ防衛大臣から自衛隊の部隊に命じました。防衛省・自衛隊は被災者の安全および生活の安定を確保するため大地震と原発事故という2正面の災害に総力をあげて取り組んでいきました。





防衛省の主な対応状況

3月11日

- 14:50 防衛省災害対策本部設置（本部長：防衛大臣）
- 15:30 第1回防衛省災害対策本部会議開催
- 18:00 大規模震災災害派遣命令
- 19:30 原子力災害派遣命令

3月14日

- 11:00 陸上自衛隊東北方面総監を指揮官とする災統合任務部隊を編成

3月16日

- 11:58 予備自衛官および即応予備自衛官の災害等招集命令

【自衛隊の災害派遣について】

自衛隊の災害派遣は、「自衛隊法」という法律に基づいて行われます。災害派遣は、都道府県知事等の要請により行うことを原則としていますが、災害の状況に照らし、特に緊急を要し、要請を待つ余裕がないと認められるときは、部隊などを派遣（自主派遣）することができます。

【各都道府県知事からの災害派遣要請】

要請者	要請日時
岩手県知事	3月11日（金）14時52分
宮城県知事	3月11日（金）15時02分
茨城県知事	3月11日（金）16時20分
福島県知事	3月11日（金）16時47分
青森県知事	3月11日（金）16時54分
北海道知事	3月11日（金）18時50分
千葉県知事	3月12日（土）01時00分

被災地での活動をより強化するため
大規模震災災害派遣においては
陸上自衛隊の東北方面総監を指揮官とする
「災統合任務部隊」を編成し
陸・海・空自の部隊の統合運用により
活動しました

3月14日



救命は速度！

考える前に
救命行動せよ！

原子力災害派遣においては
陸上自衛隊の中央特殊武器防護隊を中核として
海・空自の要員を含めた
約500名が活動しました





すべては
被災者のために！



海上自衛隊

…我々は
今できることを
精いっぱい行い
その評価は
後世の歴史にゆだねよう…



今回の災害派遣では
自衛隊創設以来の最大規模となる
約10万人の自衛隊員が
被災地で活動したの

10万人！

すごいね！

(※最大時約10万7,000人)



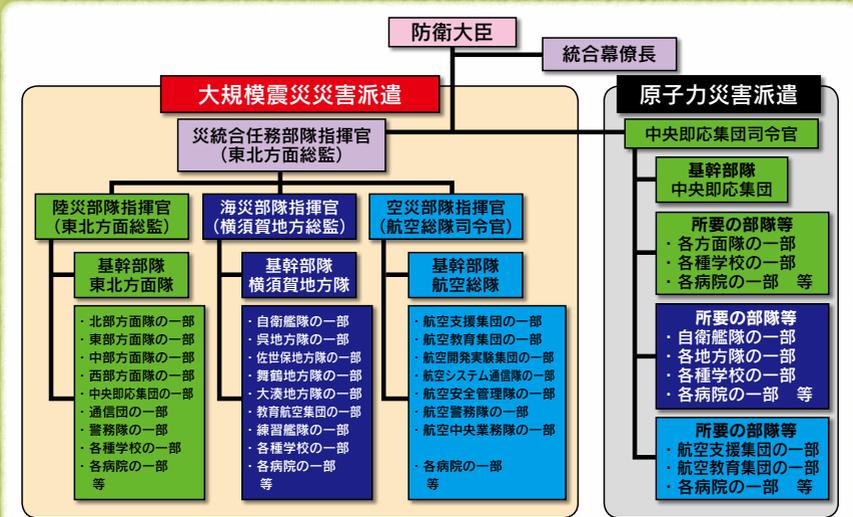
その数は1995年に起きた阪神・淡路大震災への
対応規模（最大時約2万7000人）を
大きく上回るものでした

しかも震災からわずか
1週間ぐらいの間にね



東日本大震災における防衛省・自衛隊の態勢と活動の特徴

【防衛省・自衛隊の態勢】



平成23年版「日本の防衛」 P 3 図表 特-1 東日本大震災における防衛省・自衛隊の態勢より抜粋

防衛省・自衛隊では、被災地での活動をより強化するため、3月14日に災統合任務部隊を編成し、陸・海・空自衛隊の統合運用により、大規模震災災害派遣および原子力災害派遣の活動を行いました。



また、米軍をはじめとする各国軍との協力や訓練以外では初めてとなる即応予備自衛官および予備自衛官の招集を行うなど、まさに自衛隊は総力をあげての取り組みとなり、その派遣規模は、3月13日に5万人を超え、3月18日には10万人を超える態勢となりました。



【自衛隊の活動の特徴】

- 自衛隊創設以来最大規模の運用（陸・海・空の統合任務部隊 合計約10万7,000人）
- 大震災と原発事故の2正面における対応
- 初の予備自衛官および即応予備自衛官の招集
- 自衛隊・米軍・豪州軍との緊密な連携



3月11日 多賀城駐屯地

よし！
災害派遣の
車両の準備も完了！
すぐにでも
出発だ！



そうそう
地元の
自衛隊員の姿に
安心したよね

勇気を
もらったよね



おい！
全員屋上へ
避難しろ！
津波が迫っていると
の
情報が入った

ばつ



15時59分

ほんとうに
津波が来た

車両が
水の中に…



隊員たちの
迅速な行動により

家も車も
何もかも水浸し
どうしたらいいの？

大丈夫ですか？

おばあちゃんが
動けなくて…

あなた
びしょびしょ
じゃない

すぐに
行きます！

大丈夫です
安全な避難場所へ
急ぎましょう



この日だけで多賀城駐屯地では
700人以上の住民を収容し
必要な食糧や毛布を配布しました

みんな
すこいよね

たくさん
の
困難を乗り越えての
救助活動なんだね



2011年3月11日
航空自衛隊松島基地

津波が来るから
全員避難だ！

15時54分頃

空からの救援活動の主な拠点となるはずだった航空自衛隊松島基地も津波に襲われ飛行機が水没して使えない状態になりました

津波があらゆるものをのみ込んでいく…

津波はひいても
がれきが残ると
なると…

滑走路が
使えないな

とにかく復旧作業を
始めよう

滑走路が使えないと
航空機の発着ができないため
隊員たちは
余震が続く極寒の中
夜明けから日が暮れるまで
がれき除去作業を続けました



重機が
到着したぞ



がれき除去作業に必要な
ブルドーザーなどの重機や、
航空機を安全に誘導するための
移動管制隊が到着し
共に作業を行いました



管制塔や
レーダーの修理は
任せてください

ありがとうございます
応急処置を頼みます



これは助かる！

ガ
ガ
ガ

震災からわずか4日で滑走路が一部復旧
約1週間後にあたる作業完了の翌日には
移動式管制用器材の運用を開始する
ことができました



これで
ようやく
被災地に
物資を送れる



一分一秒でも早く
被災地を
救わなければ……



そして
被災地では

自衛隊は
さまざまなか
救援活動をしたの



自衛隊による迅速な初動対応

陸上自衛隊多賀城駐屯地や航空自衛隊松島基地が被災し、航空機や車両も水没しましたが、自衛隊は、可能な限りの装備品・人員を投入して、大規模かつ迅速な初動対応を実施しました。

(初動対応人数：8,400人、航空機190機)



【陸上自衛隊】



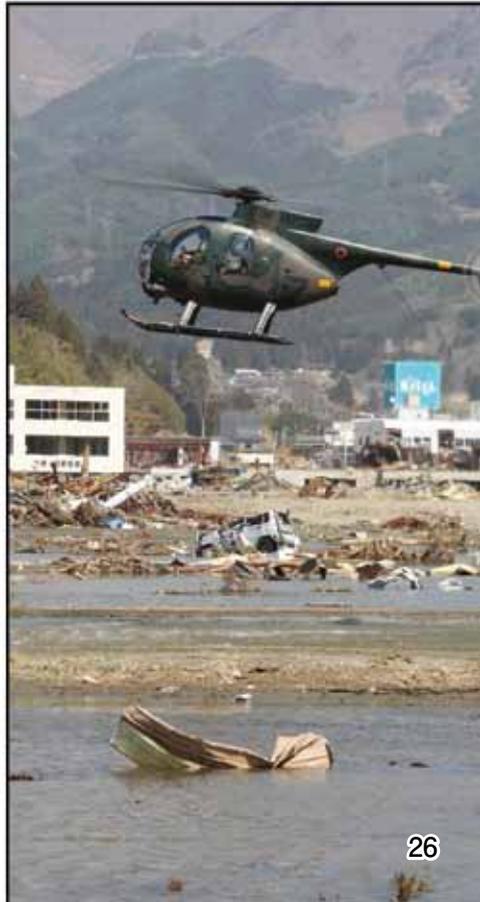
【海上自衛隊】



【航空自衛隊】



厳しい環境の中で
 自衛隊は被災者の捜索・救助に
 重点を置いた活動を行いました



そして
多く救助
しなくては

とにかく
ひとりでも早く

…助けて

だれか
いませんか？

今は
あなたの無事が
大事です

大丈夫ですか？

家族が…
家族が
いるんです！

自衛隊は
全救助者（約2万7000人）の
約7割（約1万9000人）を
救助しました

あとは
わたしたちが
探します
任せてください！

家族を…
家族を…
お願いします…

まとめ（陸・海・空自衛隊の活動）

地震発生当初、防衛省・自衛隊は、まず、被災者の捜索・救助に全力をあげて取り組みました。

派遣部隊は、警察、消防、海上保安庁などと協力しながら、被災者を避難所まで誘導したり、孤立している被災者をヘリコプターで救助しました。また、被災地域の海域においても、航空機や艦艇を可能な限り動員して捜索・救助にあたるなど、自衛隊では、全救助者の約7割にあたる約19,000名の被災者を救出しました。



被災地における捜索・救助活動の

地震発生から日がたつにつれ、自衛隊の活動は、行方不明者の捜索活動へとシフトしていきました。

地震と津波の影響で地盤が沈下し、長期間にわたり冠水状態が続いた地域も少なくなく、捜索活動は困難を極めました。このような中、派遣部隊は、米軍、警察、消防、海上保安庁と共同し、沿岸や河口部を中心に3回（延べ6日間）にわたり、行方不明者の集中捜索を行いました。



し えん ぶつ し ゆ そう かつ どう
支援物資輸送活動

わかりました！

とにかく必要なのは
食べ物・水・燃料
待っているみなさんのもとに
いち早く届けましょう！



交通網の復旧が早かったおかげで
どんどん物資を届けることができる





人間の力を
感じるよ



自衛隊は
被災地域へさまざまな救援物資を
迅速かつ的確に輸送するための
基本的な体系を構築しました



【輸送スキームの概要～救援物資の輸送（イメージ）～】

今回の震災では、被災地域へ様々な救援物資を迅速かつ的確に輸送し、各避難所のニーズを踏まえて配分する必要が生じました。

このため、防衛省・自衛隊では、防衛大臣の指示により、全国の地方公共団体および民間から提供される救援物資を各地の駐屯地などに集積した後、東北地方の花巻・福島空港および松島基地まで輸送し、岩手・宮城・福島県の集積所を経由して被災地に届けるスキームを初めて構築しました。





全国から集まった
食糧・水・燃料・衣料などといった
救援物資が現地へ運ばれました
ただ支援物資を被災者に渡すのではなく
避難所などで隊員がニーズを聞いて
それに応える物資の提供も
行うようになりました

ただ
集まった物資を
渡すのではなく

限りがあるもの
だからこそ
それぞれの必要に応じた
配分をしないと
いけなかったの



あなたなら
お願いできるわ

正直
男性だとちょっと
言いにくい
じゃない？

任せてください



…欲しいのは
今のところ
それだけよ

了解しました

確かにないと
困りますよね

現地ニーズの把握には
女性隊員が活躍しました

現地ニーズの把握

駐屯地で集めた数種類の支援物資の中から被災者の必要に応じた物資を提供するために、避難所などへの救援物資の輸送や配分を統制・調整する部署を設けただけでなく、女性自衛官を含む派遣部隊が実際に避難所を戸別訪問するなど、できるだけ具体的に被災者が必要となるものは何かを把握して、迅速に提供できるように努力しました。

- ①糧食など最小限の支援物資を積みます。 ②必要なもの、足りないものを聞きながら、在庫を確認し、支援物資を準備します。



- ③在庫があればお渡しします。在庫がなければ、手配をして、後日お届けします。



具体的に何が必要かを把握することで、被災地で特に不足する傾向にあった灯油、軽油、ガソリン、水や食糧、衣料、毛布、粉ミルク、紙おむつ、簡易トイレなど、避難所のニーズを踏まえたきめ細かな救援物資の提供を行うことができました。

女性特有の要望が多かったことから、女性に対する聞き取り調査および物品を渡す担当として、女性自衛官が活躍しました。



いんりょうすい
飲料水



こな
粉ミルク



とうゆ
灯油・
ガソリン



にほんぜんこく
日本全国から
いろんなかた
いろいろな方々の
まごころ
真心が
とど
届けられたのよ



たぐさ
たくさん
届けられても
どう
活かすか
が
たいせつ
大切になるのね



いるい
衣類



もう
毛布・
まくら

むだ
無駄なもの
ひとつ
一つもないもんね



「がんばろう！」東北ステッカー



震災発生から1週間たち、状況がわかり始めてくると、自衛隊は、岩手県、宮城県の両知事から、生活支援に重点を置いた支援の要望を受けました。これに際して、被災者の救命から生活支援へと重点を移していくにあたり、この方針の変更が目に見えるかたちでわかる何かがないかを考えたところ、一部の部隊で、被災者を少しでも元気づけるためにヘルメットに「がんばろう！ みやぎ」「まけるな！ 東北」といったキャッチフレーズをつけているという報告を受けて、それを全部隊に採用することに決定しました。

「がんばろう！」という意味の言葉と地域名を組み合わせるといふ最低限の縛りを設けて、あとは親しみやすさと地域性を重視したステッカーにしました。

単にかたちが見える、かたちがある物資を支援するというだけではなく、目には見えないけれど、かたちはなくとも、復興につながる希望を届ける、そして、いっしょにがんばろうという意味を込めて、全員が思い思いのメッセージを入れたステッカーをヘルメットにつけました。



第4章

見えない敵との戦い



うん
今はこっちに
帰って
きたけど

すごくお世話に
なったらしいんだ



日本全国が
東北のために
立ち上がったんだね

そういえば

かつのりくんの

お父さんはあの時

福島にいたんだよね？

3月11日

福島第一・第二原発において
地震や津波の影響で原子炉の冷却機能が不全となり
政府が原子力緊急事態を宣言し
全力をあげて原子炉の冷却を試みました



福島で起きた
原発事故にも
自衛隊員たちは命がけで
立ち向かっていったの

しかし

建屋にあふれた水素が爆発し
核燃料が溶解するという
最悪の事態になりました

3月11日

原子力災害派遣命令のもと
様々な分野のスペシャリストが集まった
陸上自衛隊の中央特殊武器防護隊が
福島へ向けに出発しました



何があるうと
我々は任務を
成し遂げてみせる



つらム
CO LU MUN

中央特殊武器防護隊

陸上自衛隊の特殊武器防護専門の化学科部隊。国際平和協力活動や国内における災害や各種事態に即応するため編成された中央即応集団のもとに属しており、埼玉県の大宮駐屯地に所在します。国内任務においては、方面隊を増援し、特殊武器（核・生物・化学兵器）に汚染された地域の偵察・除染を行います。

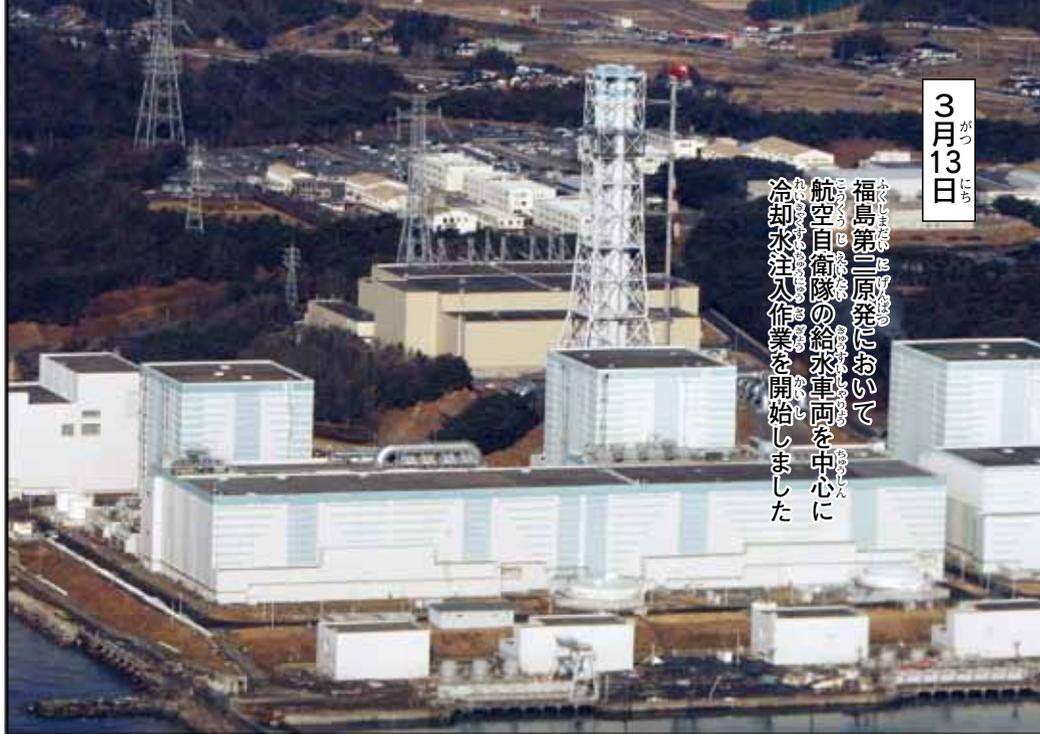
原子力災害にあたっては、この中央特殊武器防護隊を中核として事態の対応にあたり、除染、原発のモニタリング、放水、住民の一時立入支援などを実施しました。



3月13日

がつ
にち

福島第二原発において
航空自衛隊の給水車両を中心に
冷却水注入作業を開始しました



3月14日

がつ
か

福島第一原発3号機への
給水作業に従事していた隊員数名が
原子炉建屋の爆発事故に巻き込まれ
負傷しました



一見すると
何もないように
見えるが…

現場は
ひどい状況だ

とにかく
今は食い止める
ことが重要だ





とにかく
やるしかない！

自分たちが
何とかしなくては

わたしたちも
行こう！

ぼくらが
がんばらないと！

特殊技能を持つ精鋭たちが
原子力災害に一丸となって立ち向かっていきました

こういう時こそ
支え合わないと

行くぞ！！

3月17日

危機的状況が続く福島第一原発では
放射能の拡散を防ぐため

「決死の作戦」が行われました

周囲の放射線量が高い中

まずヘリコプターによる水の投下が行われました

下から吹き上げる水蒸気爆発も予想される

まさに「命がけ」の現場に隊員たちは果敢に挑みました

行くぞ！

届け！

さらに17日から18日にかけて
全国の自衛隊の消防隊が集まり
消防車による大掛かりな放水作業も
行われました

陸自第1ヘリコプター団のCH-47Jヘリコプター2機により
空中消火機材（バケット）を用いて福島第一原発3号機へ計4回
約30tの海水を投下、また各自衛隊保有の消防車により放水を行い
17日～18日、20日～21日で、延べ44台で約340tの水を放水し
冷却にあたりました

3月21日

がつにち

原発への放水作業の妨げとなる
がれきの除去のために
戦車も出動しました



ここではだれも
体験したことのないことが
日常になっている

我々は
住民の
そして国民の
かけがえない日常を
取り戻さなくてはならない！

行くぞ！

がんばろう！

捜索活動

さらに周辺に住む住民への丁寧な対応も行われました

原発周辺地域の行方不明者などの捜索を行い、その進捗状況を踏まえてさらに大掛かりな捜索を実施。

除染作業

陸自の化学部隊が原発周辺に除染ポイントを設置し、住民や隊員にきめ細やかな除染を実施。

戸別訪問

住民の安全確保のための避難支援や、戸別訪問、巡回診療などを実施。

福島周辺における活動実績

■放水・給水

- ヘリコプターによる水投下作業



- 消防車による放水作業



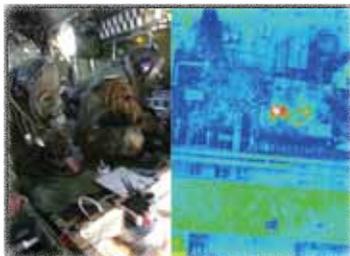
■除染

放射線量の計測や除染を実施するとともに、作業に使用した航空機や車両などの除染も行いました。



■モニタリング作業など

福島第一原発の状況および放射性物質の大気中への放出の程度などを常続的に把握するため、ヘリコプターなどで上空から温度測定、ビデオ撮影などを行いました。



■原発周辺地域の住民に対する支援

避難した住民に対して放射線量の測定や除染、屋内退避区域では、戸別訪問や巡回診療、配送支援などを行いました。



■原発周辺地域の 行方不明者などの捜索





とくに べいこく
特に米国からの支援は
ただがい
多大でした

べいこく
在日米軍を含め
米軍としてお役に立てる
べいこく
米国の協力したい
ことがあれば協力したい



この びじょうじたい
この非常事態に
せいかいこく
世界各国からの
しえん
支援もあったの

3月14日



えんじゆ
演習に参加予定だった
べいこくほ
米空母ロナルド・レーガン
などの艦艇も予定を切り上げて
さんりゆう
三陸沖に到着すると
ゆくえん
行方不明者の捜索救助活動や
きうえん
救援物資の輸送活動を
かいし
開始しました



米軍による支援活動「トモダチ作戦」

米軍は、東日本大震災を受けた人道支援・災害救援活動を「トモダチ作戦」と命名し、最大時で人員約16,000名、艦船約15隻、航空機約140機を投入するなど大規模な兵力で、捜索救助、物資輸送、仙台空港の復旧、新学期を前にした学校の清掃、気仙沼大島におけるがれき除去作業、さらには、日米共同での行方不明者の集中捜索など、被災地を中心に大規模な支援活動を実施しました。また、原子力災害への対応にあたっては、各種情報の提供や防護服、消防ポンプなどの支援のほか、米海兵隊放射能等対処専門部隊（約150名）を派遣しました。



自衛隊部隊の輸送支援



救助物資・人員輸送支援
物資の提供



被災者の捜索・救助支援



原子力災害にかかる支援



被災地のインフラ復興支援



島民とのふれあい



……とにかく
行動ある
のみだ



OK!

こちらは
我々がやるから

向こうの
がれきを
頼む

よし
みんなこっちだ
ガッツだぜ!



……



……

OK!
Come on!

あのお……
ほくらも
手伝いたいで
道具を
借りたんですが……



3月27日

住民たちの生活の窓口となる港が
使用不能となり
孤立していた気仙沼市大島で
強襲揚陸艦「エセックス」が
人道支援活動を行いました



ここで作業が
できることは
我々にとっても
非常に名誉な
ことなんだ

来てくれて
本当に
助かっているよ

君たちのパワー
には驚かされる

助け合うのは
当然のことだし





今回の活動で
学校の片付けではなく
漁港の整備を選んだのは
どうしてなんだ？

島民たつての
お願いだった
そうじゃないか？

学校の片付けは

この島を
見ていれば
わかるよ

どうしてだよ

今
彼らに必要
なのは港だ

学校を片付けるのも
大切だけど

島の人たちは
早く自立
したいんじゃないかな？

……

……



港が復興すれば
自力で島と本島の行き来が可能になるし
物資の調達もできる

少しでも早く
自分たちの生活を
自分たちの手で
取り戻すことが
必要なんだと思う



そこまで考えて
くれていたなんて

…ありがとう
本当に



ぼくらは
いつまでも
いられるわけじゃ
ない



ほんとうにほんしゅうの
 本^{ほん}当^{とう}に日^{にっ}本^{ぽん}中^{ちゅう}の
 そしてせかいじゅうの
 世^せ界^{かい}中^{ちゅう}の
 人^{ひと}々^々に
 ぼくらはあいて
 支^あえら
 れて
 る
 ん
 だ
 ね

だれかがいつも
 わたしたちを
 支^あえて
 くれ
 て
 る

うん
 ほんとう
 本^{ほん}当^{とう}に
 そう
 思^{おも}う

つらム
 CO LU MUN

米軍以外の各国軍からの支援

米国以外でも、オーストラリアをはじめとした、さまざまな国から、輸送や物資、生活などに関する支援がありました。



オーストラリア

豪空軍機C-17により、豪州の救助隊員75人と救助犬2匹を日本に輸送し、その後日本国内で水などの救援物資や原子力対策のための高圧放水ポンプなどを輸送しました。



韓国

C-130輸送機により、救助隊員102人を日本に輸送し、日韓間で物資の輸送も行いました。



タイ

C-130輸送機で、主に救援物資を輸送しました。



イスラエル

医療チームを日本に派遣し、宮城県南三陸町で診療活動を行いました。



フランス

原子力災害派遣活動中の自衛隊を支援するため、防衛省に対し、放射能防護服1,000着を無償提供しました。

ソウルトレイン・サクラクラス

東日本大震災の際に、その支援活動の規模と内容において一番大きな力となったのが米軍からの支援です。献身的な米軍の活動には日米両国の長きにわたるきずなの深さを再認識させられるだけでなく、将来に向けてさらに発展し、深まっていくことを感じさせられるものでした。

ソウルトレイン作戦

4月21日から、米軍は、自衛隊と共同で、津波被害を受けて復旧のめどが全くたっていないJR仙石線の復旧作業を実施しました。日本と米国の魂を込めて鉄道を復旧しようというスローガンのもと、「ソウルトレイン作戦」と名付けられ、東松島市にある野蒜（のびる）駅周辺のがれきの撤去作業を行いました。



SAKURA CLASS

米軍は、4月26日、宮城県石巻市の小学校を訪れ、実際に小学校のがれきの撤去を担当した兵士を中心に、子どもたちに向けて、英語の授業や、通訳を介して米軍の活動について紹介を行いました。





うん

なんだか
お母さん
みたいだった

あのときは
おふろや食事
ありがとう

今では
普通になったけど



大変だった
よね



自衛隊には本当に
いろいろなお仕事
があるんだね

そうね



救助だけじゃ
なくて

みんなの生活を
支援するのも
わたしたちの
仕事だから



それはね……



ぼくたちの生活にかかわるお仕事にはどんなものがあつたの？

知りたい！



自衛隊は行方不明者の捜索を続けながら
住民たちのニーズを考え
給水支援・給食支援・入浴支援・衛生支援など
さまざまな生活支援を行いました



燃料支援



ガソリンや灯油の輸送支援や被災地のニーズに応じて駐屯地や基地などで保有・備蓄している燃料を無償提供し、給油所で給油できるようにした。

給水支援



生活に欠かせない飲料水や生活用水が不足しないよう、給水車による支援や、定期的に給水できるように、給水所を設置した。

入浴支援



ニーズを踏まえて陸自の野外入浴セットを用いた入浴施設を各地に開設。基地や艦艇の浴室も開放し、米軍の支援によるシャワーセットも利用できるように支援した。

給食支援



非常用糧食の提供だけでなく、温かい食事を提供するため、主要な避難所において炊き出しを実施した。

慰問演奏



陸・海・空自の音楽隊などが各避難所を訪問し、音楽演奏などの慰問活動を行った。

衛生支援



自衛隊の医務室を開放したり、巡回診療や衛生管理、健康相談などを実施した。

輸送活動



燃料や救援物資の輸送支援や、孤立した地域や離島からの救急患者の輸送などを行った。

防疫活動



ハエの大量発生による感染症のまん延を防止するため、避難所や倒壊した家屋、地面に薬剤（殺虫剤）を散布するなどの活動を行った。

じょきょ どうろ けいかい
がれきの除去および道路啓開



ぜんかいおおく
全壊家屋などにおいて
ゆくえ ふめいしゃ おこな
行方不明者の捜索を行いながら、
ひさいち
被災地における生活を回復し
ふっこうかつどう
復興活動をスムーズに行うために
がれきの除去や
じょきょ
道路の修復作業を行いました

どうろ けいかい
道路啓開



どうろ ふつきう
道路復旧



ふつきうまえ
復旧前

ふつきうご
復旧後



現場には
家族の思い出に
つながるものが
たくさんあるな



ここに暮らしていた
人たちの宝物だから
大切にしなければ



アルバムだ！



よかった
きれいに
残っている

…大事に
持って帰ろう

持ち主の手元に
戻ってくれればいいな

大震災により
海の窓口である港湾は
使用不能になった場所も多くあり
大型艦は医療支援や入浴支援
食糧支援などを提供できることから
災害時の海上支援拠点として
機能しました

いよいよ到着
ここからが本番



輸送艦おおす

海の上とは
思えない！

何か
ほっとするね

うん
ほっとする

わあ！



こんにちは

ここは
あか
明るくて
いいね



ここは
あんぜん
安全だから
あんしん
安心してね



あら？

こんにちは！



わかりやすく
言うとお
おふる当番かな

ここ
おふるがあるの？

やった〜！



お姉さんは
なんの仕事を
しているの？

えっと…



こんにちは

こんにちは



早くみんな
おうちのおふろに
入れると
いいですね

本当に
あるべき日常から
みんなが放り出されて
今ここに
いるんだもの



もつともつと
がんばらなくちゃ!

うん
本当に
よね

みんなが笑顔
を取り戻してく
れる
ように...



おふるもきもちよかった

ここが海の上とは思えないよ

お姉さん!

さっきの!



あら

おいしい! あったかくてうれしいね

ご飯



よかった!

これからここでフルートの演奏があるから聞いていって!



うん!



ほんとう
本
当
に
す
ご
い
な
と
おも
思
っ
た
ん
だ
け
ど

こ
ん
な
に
お
お
大
き
な
災
害
に
す
ぐ
に
た
い
あ
う
対
応
で
き
た
の
は
ど
う
し
て
な
ん
だ
ら
う
?

に
ほ
ん
こ
う
日
本
中
の
自
衛
隊
が
す
ぐ
に
あ
つ
ま
ま
っ
て
く
れ
た
ん
だ
よ
ね



そ
れ
は
ね

ひ
び
日
々
の
訓
練
が
あ
つ
た
か
ら
な
の



そ
う
だ
よ

ひ
び
日
々
の
訓
練
?
?



わたしたちは
いつ何時でも
国民のみなさんをあらゆるものから
守るための訓練を欠かささないの



それが
わたしたちの仕事



そうね
それは日本が
平和であることの
証しだもの

でも
訓練が
本番にならないのが
一番なのかも

備えあれば
憂いなしって
やつか



ぼくたちの毎日まいにちは
また新しく
始はじまっていくんだね

うん

あ
当たり前だと
おもっていた生活せいかつが
こんなに大切たいせつなものだと
おもわなかった

みんなが安心あんしんして
暮くらせるように
わたしたちはいつも
がんばるから

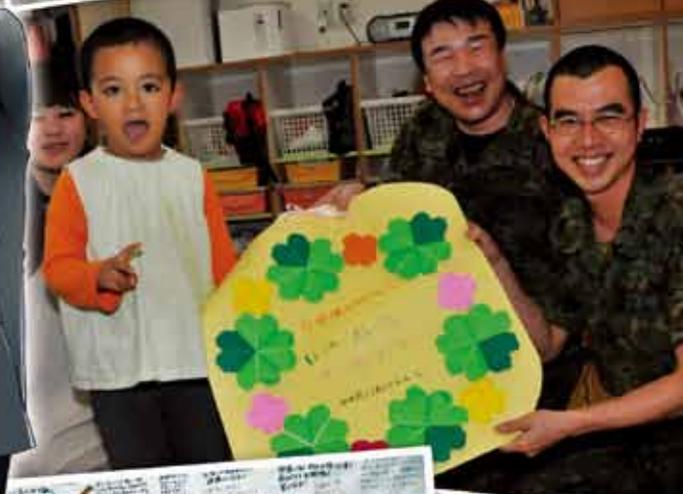
きみ
君たちもいつか
だれかのために
がんばれるように
なってね



陸上自衛隊第33普通科連隊のみなさん
毎日ありがとうございます みなさん応援のつもりです



「ありがとう」を
力に変えて
これからもがんばります!



被災者からの感謝メッセージ

東日本大震災での自衛隊の対応については、被災者をはじめとする方々から、激励、期待、感謝などのメッセージがさまざまな媒体を通じて防衛省・自衛隊に寄せられており、これらの声も、派遣された隊員の士気の維持・向上に非常に大きく寄与しています。



即応予備自衛官および 予備自衛官の招集

東日本大震災では、制度創設以来、初めて即応予備自衛官および予備自衛官が招集され、常備自衛官とともに活躍しました。今回の震災では、即応予備自衛官実人数約1,400名（延べ約2,200名）、予備自衛官実人数約300名（延べ約500名）が派遣され、被災地における給水、給食、入浴等の生活支援活動、物資輸送、がれき除去、捜索活動のほか、通訳業務や医務室における衛生業務、さらに、各駐屯地・基地での後方支援業務に従事しました。

【即応予備自衛官・予備自衛官とは？】

国の緊急事態が起きた場合には、大きな防衛力が必要になりますが、その防衛力を日ごろから保持することは効率的ではありません。そのため、ふだんは必要最小限の防衛力で対応し、いざというときに必要となる防衛力を急速かつ計画的に確保するために設けられたのがこの制度です。

即応予備自衛官・予備自衛官は、ふだんは社会人として一般の会社などで働いていますが、その練度を維持するため、職場の休暇などを利用して毎年一定期間（即応予備自衛官は年に30日、予備自衛官は年に5日（基準））の訓練を受けています。



東日本大震災（平成23年3月11日） における災害派遣活動

（平成23年12月26日現在）

1. 大規模震災対処

3月11日

↓

大規模震災災害派遣

8月31日

終結
（174日間）



人命救助



行方不明者搜索



入浴支援



給水支援

活動実績

派遣規模：延べ人員約1,058万人
（1日の最大派遣人員約10.7万人）

●人命救助など

- ・人命救助：19,286名
（全体の約7割）
- ・ご遺体収容：9,505体
（全体の約6割）

●物資などの輸送

- ・物資輸送：13,906t
- ・医療チームなどの輸送：
2万240人
- ・患者輸送：175人

●生活支援

- ・給水支援：32,985t
（最大約200か所）
- ・給食支援：5,005,484食
（最大約100か所）
- ・入浴支援：1,092,526名
（最大35か所）
- ・燃料支援：1,396kℓ
- ・医療支援：2万3,370人
- ・道路啓開：322km

最大派遣勢力

人員約10万7,000人、
航空機約540機、艦艇59機

2. 原子力災害対処

3月11日

┆

原子力災害派遣
(中央即応集団主体)



原発への空中放水



原発への地上放水

活動実績

- 原発への空中放水：
4ソーティ、合計約30t
- 原発への地上放水：
合計約340t
- ご遺体収容：62体
(原発30km圏内)
- 派遣規模：延べ人員約8万人

7月19日

引き継ぎ

┆

原子力災害派遣
(東北方面隊主体)



緊急患者空輸



一時立入等除染支援

12月26日

終結

(291日間)



行方不明者捜索 (原発30km圏内)



拠点除染 (4町村役場)
浪江町、楡葉町、富岡町、飯館村

※阪神・淡路大震災における災害派遣の概要

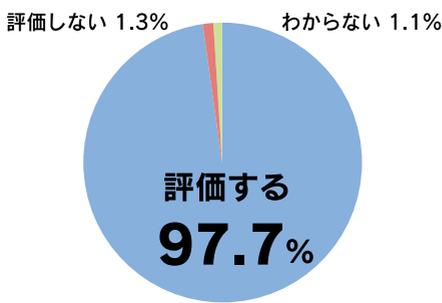
- (1) 派遣期間：平成7年1月17日～平成7年4月27日 (101日間)
- (2) 派遣規模：延べ人員 2,254,700名
- (3) 主要な活動内容：人命救助・捜索 (遺体収容含む)、給食支援、給水支援、入浴支援、輸送支援 (物資輸送を含む)、医療支援など

東日本大震災に係る活動の 評価や印象について

「自衛隊・防衛問題に関する世論調査」

(内閣府大臣官房政府広報室：平成24年1月調査) より抜粋

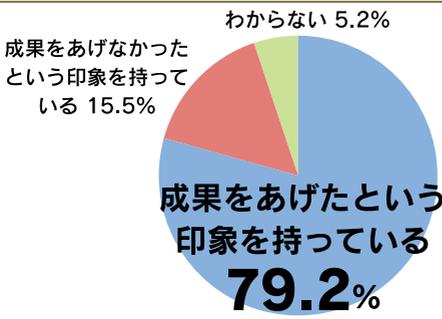
東日本大震災に係わる自衛隊の災害派遣活動に関する評価



評価する (小計) 97.7%
 ・大いに評価する 79.8%
 ・ある程度評価する 17.9%

評価しない (小計) 1.3%
 ・あまり評価しない 1.3%
 ・全く評価しない —

米軍の支援活動「トモダチ作戦」に対する印象



成果をあげたという印象を持っている (小計) 79.2%
 ・大きな成果をあげたという印象を持っている 25.8%
 ・ある程度成果をあげたという印象を持っている 53.4%

成果をあげなかったという印象を持っている (小計) 15.5%
 ・あまり成果をあげなかったという印象を持っている 14.7%
 ・全く成果をあげなかったという印象を持っている 0.8%

調査概要

調査時期：平成24年1月5日～1月22日

有効回収数(率)：1,893人(回収率63.1%)

調査対象：全国20歳以上の者3,000人

調査方法：調査員による個別面接聴取

本調査の概要は、内閣府ホームページに掲載されています。
 (<http://www8.cao.go.jp/survey/h23/h23-bouei/index.html>)

防衛白書とは

「防衛白書」とは、毎年防衛省が編集する政府刊行物で、日本の防衛政策や、1年間の防衛省・自衛隊にかかわる主なことがらを記載しています。

より多くの方々に防衛省・自衛隊の「ありのままの姿」を伝えるべく、日本の防衛を考える際の資料として、さまざまな情報を提供できるよう、写真やコラム、図表等を多く採用し、日本の安全保障を考える上で重要な事項をわかりやすい言葉で伝えるとともに、日々の任務に励む隊員の生の声や、防衛省とかかわりの深い方々の声を取り上げていきます。

主な内容（目次より抜粋）

特集 東日本大震災への対応

第Ⅰ部 わが国を取り巻く安全保障環境

概観

第1章 国際社会の課題

第2章 諸外国の防衛政策など

第Ⅱ部 わが国の防衛政策の基本と新防衛大綱、
新中期防など

第1章 わが国の防衛の基本的考え方

第2章 新防衛大綱

第3章 新たな防衛力の体制に向けて

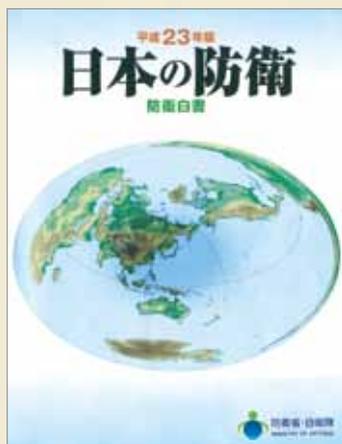
第Ⅲ部 わが国の防衛に関する諸施策

第1章 自衛隊の運用

第2章 日米安全保障体制の強化

第3章 国際社会における多層的な安全保障協力

第4章 国民と防衛省・自衛隊



平成23年版 日本の防衛 防衛白書
防衛省発行

『防衛白書』はパソコンでも読むことができます。

<http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/index.html>

防衛省・自衛隊についてもっとくわしく知りたい場合はキッズサイトを見てね！

<http://www.mod.go.jp/j/kids/index.html>



平成23年版 **まんがで読む防衛白書**

～東日本大震災における自衛隊の災害派遣活動～

2012年3月30日 第1刷発行

作 画：MCH

シナリオ：吉岡佐和子

発 行：防衛省

〒162-8801 東京都新宿区谷本村町5番1号

TEL 03-3268-3111 (代表番号)

FAX 03-5269-3270

ホームページ <http://www.mod.go.jp>

制 作：株式会社 少年写真新聞社

〒102-8232 東京都千代田区九段南4-7-16市ヶ谷KTビル1

TEL 03-3264-2624